

令和5年度

戸田市教育研究集録

戸田市教育フェスティバル開催 オンライン研修

令和6年1月9日(火)、戸田市立教育センターにて「戸田市教育フェスティバル」を開催し、学校の教職員がオンライン会議システムによるリアルタイム配信を視聴するという形式で研修を行いました。

今年度は、Google for Education 日本統括 小出 泰久 様をお招きし、ICTを利活用する意義を改めて考える機会をいただきました。

講演テーマ

子供を主語にした学びの実現に向けた ICT利活用の在り方について



Google for Education
日本統括

小出 泰久 氏

GIGAスクール構想の目的は、2024年までに、教育DX及び「次世代の教育環境の実現の為に事業者の支援プロセスを適切に展開し、教育現場におけるICT環境の“分からない”“使えない”をなくすこと」でした。

皆さんはいまどんな思いでGIGA端末を使った授業を行い、そして子どもたちと向き合っておられますか。何かを受け入れるのには、否定、怒り、抵抗、落ち込み、受け入れ、試み、発見、統合という、チェンジカーブといわれる心理的プロセスがあると言われておりますが、最初の4つのうちいずれかのポイントにあり、苦しんでいる先生方も多いのではないのでしょうか。

それに加え、現在はVUCA（変動的で、不確実で、複雑で、曖昧な）時代と呼ばれます。そんなVUCAで挑戦が求められる時代を生き抜くためには、ますます従来の硬直型思考（Fixed Mindset）ではなく、成長型思考（Growth Mindset）が必要になってきます。特に、その中で変化を許容する心、現状を把握する力、そして正確な情報データが重要となると我々は考えます。

なぜそれが必要なのか。日本が現在置かれている状況を見てみましょう。Entrepreneurship（起業のしやすさ）で世界第3位、その中でも、デジタルインフラの整備や革新性が高評価（ともに満点）を得ており（U.S. News & World Report Best Countries ランキング2022）、伝統文化とモダンカルチャーの融合により、世界有数（4位）の文化的影響力を持つと同調査では言っています。教育という観点でみると

OECD調査では、数学的リテラシー、科学的リテラシーがともに上位にあり、世界最高水準の科学技術と教育レベルを長期間にわたって維持しています。

一方で、世界経済フォーラムのジェンダー・ギャップ指数2023では、労働市場や職場における多様性と平等性の不足により活用しきれない人的資源は146カ国中1位と低く、2023年のIMDによる世界デジタル競争力ランキングでは63カ国中32位と、ビジネス分野でのデジタル化の遅れが指摘されています。もしかすると、今みなさんが試行錯誤されているデジタル教育で未来を変えることができるかもしれないというのは想像に難くない事実です。また、今後のテクノロジーの発達によりAIと協業していくことも大いに求められます。さらに、人口減少や様々な理由から、将来子供たちは様々な国の人々と一緒に勉強する、仕事をしていくことが想像できます。

さて、戸田市では以前よりAIによる代替が難しい力の育成を教育改革のコンセプトとして掲げられ、経験、勘、気合いの『3K』から、根拠、検証、科学の『新たな3K』へのシフトを目指しておられます。まさに、私たちが目指す変化を許容する心、現状を把握する力、そして正確な情報データを重視しておられ、ご一緒させていただく我々もその先見の明に感服をする次第です。

チェンジカーブで現在苦しい思いをされている先生方もいらっしゃるかとは思いますが、そんなときこそ目指す方向、そしてこのコンセプトを思い出しいただき、今一度我々Google for Educationのリソースを有効活用いただけたらと思います。子どもたちの未来のため、我々も今後も並走し、尽力をさせていただきます。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。